

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース =No.67=

【巻頭言】

環境と経済・社会の融合を目指す KECA の仕組みづくり ～SDGs の実現に努める組織基盤の強化～

理事長 河野健三

1. KECA の今までとこれから

- (1) KECA は2019年11月18日に特定非営利活動法人(NPO 法人)の認証を取得して20年を迎えました。KECA は1998年3月の設立当初から環境経営と環境教育で活動してきましたが、2015年に従来の定款の目的である「環境保全活動」に「経済活動の活性化」を加えました。
- (2) 定款を変更した2015年はパリ協定と SDGs が採択され、KECA の活動も大きく変わる時期になってきています。KECA の活動は右に示す SDGs のウェディングモデルを支える生物圏(環境)と、経済を動かしている企業への環境経営システム普及活動により経済圏とのかかわりを持ってきました。これからは真中にある社会へ目を向ける時期になってきていると考えます。



2. KECA の基本方針見直し

- (1) 事務局機能を強化するため、9月から企画・渉外部会の活動を開始し、KECA の活動理念とビジョンについて意見交換を行いました。その中で理念やビジョンの前に2013年に策定した基本方針の見直しが必要ではないかとの意見が出て、2回目の部会で基本方針の見直し(案)を策定し11月度理事会で審議しました。
- (2) 11月の理事会で策定した KECA の基本方針は次の通りです。
- ① 市民、企業および行政とのパートナーシップの形成と SDGs の実現に努め、環境に配慮した地域社会づくりに貢献する。
 - ② 自ら楽しみながら活動し、生き甲斐の持てる会の実現を図る。

3. 2030年を見据えた2020年度事業計画の策定

- (1) 基本方針①のキーワードは「パートナーシップ」「SDGs」「地域への貢献」です。私は基本方針②は①の活動により育まれると考えています。支部・委員会はもとより、事務局としても企画・渉外部会を中心に三つのキーワードを念頭に2020年度事業計画の策定を進めます。
- (2) 2020年度事業計画の策定を進めながら、事業を中心とした KECA 活動の進め方、支部・委員会のあり方、よこはま夢ファンドの組織基盤強化助成金への応募等チャレンジしていきます。

～目 次～

- p.1 【巻頭言】 環境と経済・社会の融合を目指す KECA の仕組みづくり
～SDGsの実現に努める組織基盤の強化～ 理事長 河野 健三
- p.2 【高橋弘二さんを偲ぶ】 環境教育委員会委員長 岡本 正義
- p.2 【イベント情報】
- ・内部監査員研修セミナー「エコアクション21で内部監査を行う企業向け」
 - ・環境教育フォローアップ研修会
 - ・市民環境活動報告会 「SDGs 私たちが取り組む環境対策」
 - ・キリンビール（株）横浜工場見学
- p.3. 【委員会の活動報告】
- ・環境教育委員会 岡本 正義
 - ・環境経営委員会 近藤 勝養
- p.5 【支部の活動報告】
- ・横浜支部 原 洋夫、日吉 栄一
 - ・湘南支部 小山 稔
 - ・県央支部 掛橋 俊彦
- p.8 【会員投稿】 一人の環境カウンセラーとして見えてきたこと 河野 健三

【高橋弘二さんを偲ぶ】

去る9月13日に息子さんから「父が亡くなりました」とのご報告を受けて、目の前が真っ暗になったことを覚えています。本当にKECAのこと、環境教育委員会のことをしっかりと考え、行動して下さった方でした。

現在の環境教育委員会の主たる活動は、事業者向けの環境教育インストラクター及び環境カウンセラーの養成と、自然系や学校等での子どもたちの環境教育です。この2つの活動を立ち上げ、リーダーシップを発揮して強力に推進し確たるものにして下さったのが高橋弘二さんでした。

7月に「がん治療で通院するので委員会は休みます」とのご連絡を受けましたが、「仕事で群馬に行って来ました」「東南アジアに行って来ました」等のご報告を頂いていたので、高橋さんはお元気な方という印象を持っていました。もっともっと活躍なさって、後輩の私たちを導いて頂きたかったと思うと残念でなりません。享年80歳でした。ご冥福をお祈りいたします。

環境教育委員会委員長 岡本正義

【イベント情報】

■内部監査員研修セミナー「エコアクション21で内部監査を行う企業向け」

□日時：2020年1月29日（水）9：20～17：00

□場所：フクシア（横浜市西区福祉センター）多目的研修室

□申込方法：下記連絡先にEメール、電話、ファックスのいずれかの方法でご連絡ください。

□連絡先：かながわ環境カウンセラー協議会Eメール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

□電話：045-226-5822、ファックス045-226-5825

□詳しくは下記ホームページをご覧ください。

URL: <https://keca-kanagawa.jimdo.com/>

■環境教育インストラクターフォローアップ研修会

□日時：2020年2月9日（日）13:30～16:40

□場所：フクシア（横浜市西区福祉センター）多目的研修室

□参加申込先：otakem65@keb.biglobe.ne.jp（Eメール）

□申込内容：氏名、ご連絡先（Eメール and 連絡のつく電話）、懇親会の参加の有無

□詳しくは下記ホームページをご覧ください。

URL: <https://keca-kanagawa.jimdo.com/>

■市民環境活動報告会「SDGs 私たちが取り組む環境対策」

□日時：2020年2月21日（金）、12時～17時（予定）

□場所：かながわ県民センター

■麒麟ビール（株）横浜工場見学

□日時：2020年3月26日（木）14:50～17:00

□概要：横浜は麒麟ビールの発祥の地であり、横浜工場は同社の主力工場の一つです。同工場ではビール・発泡酒・缶チューハイ等を生産しており、この度縁あって工場見学を予定しています。内容は、「環境に関連した同社の取り組みに関する講義及び質疑応答」を行ったのち、工場見学を行います。終了後はビール等の試飲もできます。楽しくて役に立つ内容が盛りだくさんですので、ぜひ多くの会員の参加をお願いします。ちなみに、ラグビーワールドカップで愛飲されたハイネケンも同工場が生産しました。詳細は別途、お知らせします。

【委員会の活動報告】

＝環境教育委員会＝ 岡本 正義

●第7回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラムでKECAの展示とPRをしました

9月19日に実施され、KECAとして参加し、展示・PRをしました。このフォーラムは、地域全体で子供たちの成長を支え地域を創生する目的で始められ、本年から横浜市教育委員会が主催する形となりました。

出展団体は横浜市の部局を加え40団体を超え、ワークショップには小学校長や教諭の方も参加されました。環境教育委員会は横浜支部と共同で参加し、小学校への出前講座の内容を中心に展示・説明しました。

●横浜市環境教育出前講座（生物多様性でYES）を横浜市の2校で実施しました

7月18日に横浜市立中川小学校で、8月20日には市立中丸小学校の放課後キッズクラブで、横浜支部と共同で「おさかなと世界のつながりを知ろう」の出前授業を行いました。

このテーマは、スーパーのチラシを活用して魚の原料原産地を学ぶと共に、水産資源劣化を知り、

水産エコラベルで資源劣化を少なくすることを学ぶものです。

中川小学校では、既に一次産業（水産業）の授業を受けていたので、生徒が楽しんで、学んでいました。中丸小学校では低学年が多かったので、海の環境悪化を招いているポイ捨てをしないことを教え、更に食べ残しを減らすための紙芝居を行いました。



中川小学校：魚の大きさクイズ



中丸小学校：魚の産地を世界地図に書いた

●（公財）日本環境協会が受託したセミナー2件に環境教育委員会メンバーが協力支援しました

8月1日に中央区環境情報センターで「生き物たちのすごワザ発見教室」に3名のメンバーが中央区の親子16名を対象に協力支援しました。

8月11日には品川区環境情報活動センターで「水の力、水の不思議の自由研究」に5名のメンバーが品川区の親子34名を対象に協力支援しました。



中央区：おなもみの当てゲーム



品川区：北極・南極モデルで夏の氷がどうなるか？実験

●2019年度環境教育インストラクター応募資格取得セミナーの準備を進めています

12月7日～8日の2日間で開催予定のセミナーの準備を進めています。セミナーチラシを右記に示します。基調講演を、「持続可能な開発のための教育（ESD）とSDGs」として関東地方環境パートナーシップオフィスの島田幸子様が実施します。環境教育委員会メンバーが事例紹介などを行います。参加者はプログラムの作成と模擬授業を実施し、実践力をつけるセミナーとしていることが特徴です。

首都圏のみならず地方からも応募が数多く来ています。

＝環境経営委員会＝近藤 勝養

「eco 検定試験対策セミナー」の報告

10月20日（日）、9時30分～17時に「eco 検定試験対策セミナー」をかながわ県民センター1502号室で行いました。今年は12月15日に試験が行われますが、それに合格するためのセミナーです。

eco 検定の公式テキストと KECA で作成した公式テキストのまとめ版の資料を使用したのセミナーです。277ページで構成された公開テキストは、第1章：持続可能な社会に向けて、第2章：地球を知る、第3章：環境問題を知る、第4章：持続可能な社会に向けたアプローチ、第5章：各主体の役割・活動、第6章：エコピープルへのメッセージの構成になっています。

今回は同一会社から3名の参加です。社長を含む人達で、試験は合格するんだと話してくれました。セミナーの講師3名も、それぞれの特徴を活かして説明をしました。環境問題は暗記するだけでなく、体で感じてもらえること、今迄の出題からの練習問題を3回は消化すること等を話しながらのセミナーです。

10年以上続いている検定試験ですが、当 NPO もいろいろ反省をしながら継続してきたセミナーです。これから環境に関する活動の方向に進みたいと考えている方や、既に環境に関する仕事をしている方で、全体を把握したいと思っている方は、是非このセミナーに参加され eco 検定に合格して下さい。今後も継続する予定です。

【支部の活動報告】

＝横浜支部＝ 1. 自然観察会報告（国立科学博物館附属自然教育園） 原 洋夫

横浜支部では支部活動として毎年1、2回神奈川県内の県立・市立公園などで、説明員付き観察会を開催しています。オープン参加で他の支部会員や非会員にも呼び掛けています。

今年度は趣向を変えて県外で近いところで探しました。目黒白金台の「自然教育園」は国立科学博物館附属で豊かな自然がしっかり保護されかつボランティア説明員の話も聞けるということで訪問した。

<開催日>2019年11月9日（土）13:30～15:30

<参加者>河野夫妻、大野、木村、大竹、千葉、森田、掛橋（県央）、筆者の9人でした。

<自然教育園の歴史>

室町時代は白金長者のお屋敷で江戸時代は高松藩の下屋敷であった。明治の初期は陸海軍火薬庫を経て大正時代に宮内庁に移管されご料地となり、戦後は「旧白金ご料地」として文部省に移管され昭和24年から現在の国立科学博物館附属となった。特徴は中世からの森林・土塁が残り、保護された結果、武蔵野の自然に近い状態で生物多様性が保たれていることである。

<園内自然観察>

案内は当園に関する自然観察ボランティアの井上様にいただいた（約1時間）。



参加者記念写真



説明者による観察風景

園内は針葉樹、落葉樹、常緑樹が極相林となり松・スダジイ・もみ・椋木などの古木、大木が目立つ。

季節的には紅葉だが、もみじはまだ早く、ハゼは紅葉していた。先日の台風19号で「大蛇の松」といわれる巨木が倒されたままになっていたが、そのままの根っこをむき出しにしたままで観察できるようになっていた。

この時期の見どころは木の実である。紅葉にはまだだがカラスウリ、さねかずら、ムラサキシキブ、いいぎりなど深紅のものからピンクのものが見ごろであった。説明員からは下草でキチジョウソウ、カンアオイ、アワコガネギクなど紹介してもらったが皆初めて知ったようだった。



さねかずらの青い実と赤い実



まゆみ

動物ではカモ（カルガモ？）やニホンカワセミなどがいる。多分ヒヨドリめじろなどもいると思うが、展示ルームでは今年春のオオタカのひなの巣立ちのビデオが放映されており、食物連鎖の頂点である猛禽類の巣があることは多様な動物（餌）がいることの証明であろう。

約2時間の短い自然観察であったが中身は濃いものであった。

<その他>

帰りは自然教育園の裏側にある徒歩約30分の恵比寿ガーデンプレイスのピアガーデンで乾杯しお開きとなった。

2. 環境教育関係 日吉 栄一

横浜支部では、環境教育委員会と連携し横浜市環境創造局の環境教育出前講座を2回実施しました。また横浜市教育委員会が共催している「第7回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラム」に参加しました。詳しくは環境教育委員会の報告をご参照ください。



大蛇の松（倒木前）

＝湘南支部＝ ちがさき環境フェア2019&ふじさわ環境フェア2019 小山 稔

2019年10月5日(土)に「ちがさき環境フェア2019」、11月9日(土)に「ふじさわ環境フェア2019」が開催されました。KECA 湘南支部は、今年も例年通りパネル展示とワークショップを行いました。



好きなキャラクターに夢中で色塗りをしている少女

今年の展示パネルでは、茅ヶ崎も藤沢も地球温暖化に伴う対策の中の「適応」に関する資料やデータ、写真などのパネルを展示しました。茅ヶ崎市の謎解きラリーや藤沢市のクイズラリーのポイントでは、市民の皆様暮らしの中で実感している「熱中症」と地球温暖化の関係や、気象庁や自治体から発せられる防災気象情報をもとに、とるべき行動と相当する警戒レベルについての啓発を行いました。展示パネルを見ながらクイズを考え、熱心に説明を聞き、正解のナンバーを見つけて喜ぶ親子連れや高齢者の方もおられました。

ワークショップは例年同様に廃ペットボトルを使った工作(浮沈子、空気砲)です。ワークショップブースには、ちがさき、ふじさわ両会場とも子供連れの親子がたくさん来場し、どちらの会場も約50本準備したペットボトルがなくなってしまうほどの盛況で KECA メンバーは昼食をとるのも大変な状況でした。

来場者(特に子ども)はプラスチックの浮き(魚の型をした醤油さし)や空気砲的(キャラクターの塗り絵)に思い思いに色塗りした後、浮沈子では浮きに重りをつけて満杯に水が入ったペットボトルに差し込んで蓋をしめて、ボトルの腹部を押して浮きが浮いたり沈んだりするのを楽しんでいました。また空気砲ではゴム風船に穴の開いたペットボトルをはめ込んで固定し、的をめがけて空気を吹き付けキャラクターが貼ってある的を倒して喜んでいました。子どもたちに作った作品は持って帰っていいよと言うと、「ありがとうございました」と言って嬉しそうに持って帰りました。

スタッフ：嶋田、西村、中本、小山4名(ちがさき環境フェア)、嶋田、西村、中本、小川、小山5名(ふじさわ環境フェア)



ペットボトルに風船を取り付けるのを手伝っている KECA のメンバー

＝県央支部＝ 2019年度「えびなっ子サマースクール『電気コツコツ作戦』」掛橋 俊彦

7月24日(水)海老名市立有鹿小学校のサマースクールに参加し「電気コツコツ作戦」を実行しました。海老名市では毎年夏休み期間中に、「えびなっ子サマースクール」が開催され、市内の各団体の協力で行われています。

KECA 県央支部では、この機会に「電気コツコツ作戦」をタイトルにして、地球温暖化防止に向け

て、自分たちの生活から出来る事、電気の使い方について学びます。

県央支部からは品川支部長、原田氏、守谷氏、野口氏、と掛橋の5名。

生徒は有鹿小学校の3年生と4年生の計38名で電気コソツ作戦は約2時間強の授業です。

まず、4班に分かれて、スライドでいろいろお勉強。

- ・地球温暖化がおきるとどうなる
- ・温暖化を止めるためには
- ・どうしたら節電できるのかのヒントを紹介。



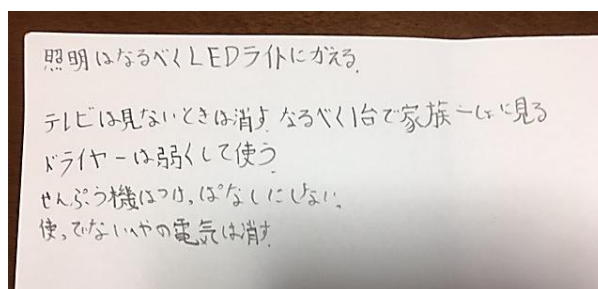
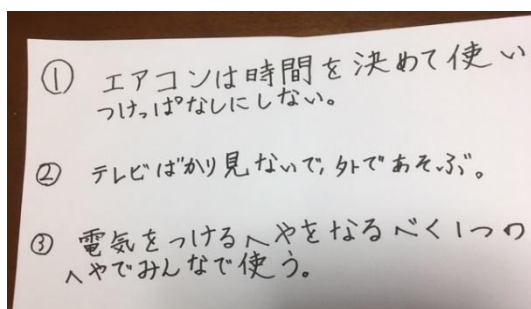
スライドでの話の後に、実際それぞれの家電はどれくらい電気を使うのかを、測って体感してもらいました。

- ・家電の種類 (テレビ、ドライヤー、扇風機の on/off や電球の種類) や使い方によってどれくらい使用量がかわるのかを消費電力メーターで読み取る。
- ・扇風機の効果を確認するために風車も一人ずつ作成。
- ・照明器の種類や数によって、発電する力が変わること体感(省エネ家族の体験)

最後に、それぞれの班で、どうすると電気を使わない、節約できるのか、自分たちの「電気コソツ作戦」を立ててもらうために、それぞれの意見を出し合い、それを3つにまとめてグループ発表してもらいました。

四つの班の発表が終わったところで、他薦方式で最優秀グループを決めて表彰して終了しました。

下の写真は、二つの班がまとめ、発表したものです。



【会員投稿】一人の環境カウンセラーとして見えてきたこと

～環境カウンセラーとKECAの役割とは～

横浜支部 河野健三

1. KECA と私との係わり

私は環境カウンセラーになって今年で13年になります。同時に KECA へ入会し、入会当初はエコアクション21の普及活動としてコンサルを行って来ました。事務局長となった2011年からは主に KECA の運営に携わってきており、環境カウンセラーとしての活動が出来ていないことに忸怩たる思

いがあります。

2. KECA の設立趣旨書にある「20世紀の教訓」

この度、企画渉外部会で KECA の理念とビジョンについて検討を進めながら、定款策定の基本となった KECA の設立趣旨書には「20世紀の教訓」として下記の文言があることが分かりました。

「20世紀において、人は物質の豊かさや生活の利便性を追求するあまり、地球が長い年月をかけて蓄積した資源、エネルギーを短期間で大量に消耗し、かけがえのない地球を汚染し、疲弊させ、社会に深刻な環境問題をもたらしました。」私は KECA の理念とビジョンを検討するに当たり、この教訓を重く受け止めて進める必要があると考えています。

3. 「持続可能な社会の3原則」という考え方

北欧諸国やドイツなどでは国の基本政策の根幹として次の3つが持続可能な社会の3原則として重視されているようです。

- (1) 再生可能な資源（自然エネルギー、森林、水など）の消費速度を再生速度内に収める。
- (2) 再生不可能（枯渇）資源の消費は、再生可能な資源に代替する。
- (3) 汚染排出量は環境の吸収（浄化）量を上回らない。

4. 環境カウンセラーと KECA の役割とは

以上述べた KECA 設立に携わった諸先輩の思いと北欧諸国で国の基本政策の根幹として重視されている持続可能な社会の3原則を踏まえて、私の考えたそれぞれの役割は下記の通りです。

- (1) 環境カウンセラーの役割とは「社会のための自然を守る」こと。
- (2) KECA の目指す役割とは「脱炭素社会を目指し地域循環共生圏の構築を支援する」こと。

会員の皆様にはそれぞれの思いやお考えがあることと思いますが、私としては今までの経験を糧に、「社会」と「地域」に目を向けて活動していきます。

【編集後記】

本67号には、巻頭言、「高橋弘二さんを偲ぶ」、イベント情報、委員会・支部の活動報告、会員投稿を掲載しました。

今年の夏は、台風の豪雨や強風による被害が甚大でした。国連環境計画（UNEP）は、温室効果ガスの2018年の排出量は「過去最高に達した」とする年次報告書を公表しました。益々環境状況が厳しくなっています。地球温暖化防止対策等を実施し、かけがえのない地球を未来の世代に受け渡すために、今まで以上に情報発信をして活動することが求められています。

（千葉）

〔発行〕 特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：河野健三 / 編集人：千葉雅子

◇住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPO スクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇Eメール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：https://keca-kanagawa.jimdo.com/